

JASIAS 2016@JIMI

日本映像学会 第42回 全国大会
@日本映画大学

第3通信

大会テーマ:

「映画やめますか、人間やめますか ～創作と研究のジレンマ～」

日本映像学会は、映画・テレビ・写真の学術的な研究と創作表現の先鋭的な模索を願い、1974年に設立され発展してきました。42回を迎える今回の大会記念シンポジウムでは、創作と研究をどのように若い世代の学生たちに向けて発信するのか、教えるのかを改めて問い直したいと思います。社会のなかで大学や学問の位置づけが再定義されるなか、創作のための技術教育や学術的な探求にとどまらない映画の在り方を議論する必要があると考えています。映画・映像教育が人間として社会に有用でありうるのか、あるいはその逆に、優れた教養教育が才能ある映画人を育てるのか、さまざまな立場から映画教育に携わるみなさまのお知恵をお借りして討議する場にできれば幸いです。

日本映像学会 第42回 実行委員長
石坂健治

大会概要

●会期：2016年5月28日(土)～29日(日)

●会場：日本映画大学 白山キャンパス
(神奈川県川崎市麻生区白山2-1-1) www.eiga.ac.jp

●大会参加費：会員 3,000円、一般 2,000円、
大学生・大学院生 1,000円

・懇親会費：5,000円

※申し込み未了の方は5月26日(木)までに氏名、会員/一般/学生の別、懇親会参加の有無を記し、jasias2016@eiga.ac.jpまでお申し込みください。

・2日目 昼食券：500円(事前申し込み制)

プログラム概要

●5月28日(土)

【シンポジウム・研究発表・作品発表・作品ループ上映・懇親会】

11:30～ 受付開始 [エントランス]

12:30～12:45 開会の辞 [体育館]

12:50～14:20 シンポジウム①
「映画を作る」 [体育館]

登壇者：石井岳龍(神戸芸術工科大学)、
小口詩子(武蔵野美術大学)、
昼間行雄(文化学園大学)
司会：天願大介(日本映画大学)

14:30～16:00 シンポジウム②
「映画を見る」 [体育館]

登壇者：伊藤洋司(中央大学)、
長谷正人(早稲田大学)、
木下千花(京都大学)
司会：土田環(早稲田大学)

16:30～17:00 研究発表・作品発表

16:00～19:30 作品ループ上映 [学生ホール]

17:30～19:30 懇親会 [学生ホール]

●5月29日(日)

【研究発表・作品発表・作品ループ上映・総会】

9:00～ 受付開始 [エントランス]

10:00～11:50 研究発表・作品発表

12:00～13:30 昼食 ※理事会 [H212]

13:30～14:30 第43回 通常総会 [体育館]

14:50～18:00 研究発表・作品発表

10:00～18:00 作品ループ上映 [学生ホール]

5月29日(日) 昼食案内

会場には学食がなく、周辺の飲食店も少ないため、昼食(弁当)をご希望の方は5月26日(木)までに氏名・数量を明記し、jasias2016@eiga.ac.jpまでお申し込みください。

会場所在地・交通

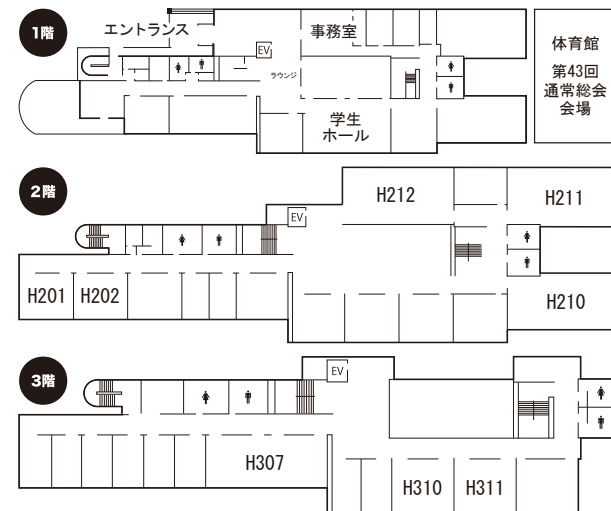
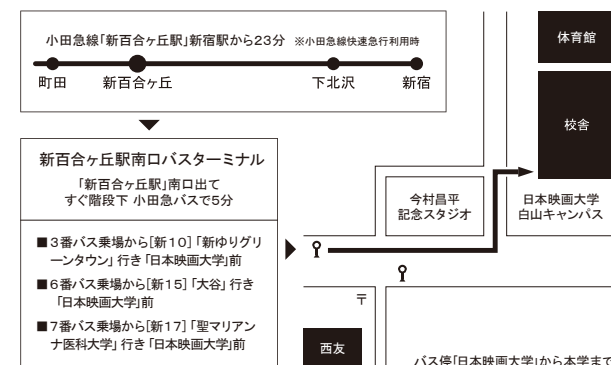
日本映画大学 白山キャンパス
〒215-0014 神奈川県川崎市麻生区白山2-1-1

小田急線 新百合ヶ丘駅下車、小田急バス 約5分または徒歩 約20分

※委細は日本映画大学 HP「交通アクセス」をご覧ください。
<http://www.eiga.ac.jp/access.html>

※駐車場はありませんので、公共の交通機関をご利用ください

会場案内



●日本映像学会 第42回 大会実行委員会

- ・委員長 石坂健治 (日本映画大学映画学科長、日本映像学会常任理事)
- ・委員 伊津野知多 (日本映像学会会員) 川崎賢子 (日本映像学会会員)
- 高橋世織 (日本映像学会会員) 田辺秋守 (日本映像学会会員)
- 土田環 (日本映像学会会員) 藤田純一 (日本映像学会会員)
- 安岡卓治 (日本映像学会会員)
- ・顧問 佐藤忠男 (日本映画大学学長、日本映像学会会員)

●大会実行委員会連絡先

〒215-0014 神奈川県川崎市麻生区2-1-1 日本映画大学 白山キャンパス
日本映像学会 第42回 大会実行委員会 委員長：石坂健治
tel:044-328-9123(代) fax:044-988-7575 mail:jasias2016@eiga.ac.jp

●大会に関する最新情報は大会サイトをご覧ください。
http://jasias.jp/conference/news_conf/2016main

日本映像学会 第42回 大会第3通信
発行:2016年5月17日/日本映像学会 第42回 大会実行委員会

5
/
28
(土)

11:30	大会受付開始	
12:30 16:00	[開会の挨拶] [シンポジウム] 体育館	<p>■第1部「映画を作る」 登壇者：石井岳龍（神戸芸術工科大学） 小口詩子（武蔵野美術大学） 屋間行雄（文化学園大学） 司会：天願大介（日本映画大学）</p> <p>■第2部「映画を見る」 登壇者：伊藤洋司（中央大学） 長谷正人（早稲田大学） 木下千花（京都大学） 司会：土田環（早稲田大学）</p>

A 研究発表 H210	B 研究発表 H211	C 研究発表 H212	D 研究発表 H310	E 研究発表 H311	F 作品発表 H201	G 作品発表 H307	H 作品ループ上映 学生ホール
16:30 17:00	A-1 飯岡詩朗 分身する男； 『七年目の浮気』とワイドスクリーン	B-1 植田寛 高等教育における映像専門教育の 背景と指導方法	C-1 趙陽 『牯嶺街少年殺人事件』における 画面内の運動	D-1 桑原圭裕 映画ショットにあらわれる風土性に 関する考察—フィルム・色・湿度を 中心に	E-1 成田雄太 スーパーインポーズ定着以前のトニー・ブ レゼンデーションについて—サイド・タイトル、 X・ヴァージョンを中心に	G-1 山口勝弘、北市記子 Mount Fuji and Golden Cockroach	作品発表者の映 像作品 (F, G) を ループ上映

17:30 19:30	懇親会 学生ホール						
---------------------	-----------	--	--	--	--	--	--

5
/
29
(日)

9:00	大会受付開始							
10:00 10:30	A-2 雑賀広海 連鎖する切腹 —三島由紀夫と残酷時代劇	B-2 元村直樹 映画制作実習の副次的教育効果	C-2 高城詠輝 新藤兼人の大地と家と人と	D-2 松尾好洋 「労働衛生3管理」から考える 映画フィルムの保存	E-2 近藤和都 複製技術時代の映画経験 —戦前期日本における時間的 構造化される受容空間について	F-1 太田曜 16ミリフィルムの映画作品 『BLANK SPACE』	G-2 須藤信 360度映像におけるCGの マッチムーヴ表現作品『CG360』	作品発表者の映 像作品 (F, G) を ループ上映 ↓
10:40 11:10	A-3 伊藤弘了 小津安二郎研究における 「ネガ・シート」の活用可能性について	B-3 宮下十有 大学における初歩的映像制作の授業 実践—造形ワークショップを題材 とした映像制作	C-3 大瀬愛 映画『四谷怪談』考—深作欣二 『忠臣蔵外伝 四谷怪談』における 「傍観者」の視点	D-3 高橋克三 子供の記録と8ミリフィルムアーカイブ	E-3 森下豊美 「アニメーション」から「アニメ」へ —草月アニメーションを源流とする アニメーションの系譜についての考察	F-2 末岡一郎 кинофотоленка —映画フィルム—	G-3 黒岩俊哉 映像表現の特殊効果における 「補完」の考察—映像作品「nHr 3」	
11:20 11:50	A-4 須川まり 『宗方姉妹』における 京都の都市イデオロギー	B-4 栗原康行 大学に於けるグループ制作の 映画製作と劇場公開上映による 教育効果	C-4 鳩飼末緒 ポルノとしての日活ロマンポルノの確立— 『団地妻 昼下りの情事』の特異性	D-4 矢澤利弘 野上上映型映画祭の実践的意義	E-4 田中晋平 1970年代後半の関西における 自主上映とその多様性	F-3 川口肇 デジタル時代における銀塩フィルムに よる映像表現	G-4 風間正、大津はつね 記憶のマチエール #8 (D-27)	
12:00 13:30	昼食／理事会 ※理事会は H212にて開催							
13:30 14:30	第43回通常総会 体育館							

14:50 15:20	A-5 正清健介 小津映画における 地方方言の疑似性について —小津の音声演出	B-5 有吉末充 アニメ制作ワークショップの 成果と今後の課題	C-5 角井誠 対比の技法—ジャン・ルノワール 『ランジュ氏の犯罪』における 俳優演出	D-5 田辺秋守 ジル・ドゥルーズ『シネマ』*運動 イメージ』の映画人間学的 考察：実存の5つの様態への注解	E-5 安部裕 テレビ番組における、 簡易スタジオを使用した 番組の映像技術	F-4 水由章 CROSSING IMAGE —クロスプロセス〜ハンドプロセス	G-5 笠間悠貴 metaphors	作品発表者の映 像作品 (F, G) を ループ上映 ↓
15:30 16:00	A-6 難波阿丹 初期映画にみる観客の身体の 馴致システム：D.W. グリフィス作品を 手掛かりとして	B-6 肥後有紀子、荒川美世子 大学における映像制作教育の現状と 課題—武蔵川女子大学情報メディア 学科を事例とした一考察	C-6 須藤健太郎 ジャン・ユスターシュによる映画史— 『ナンバー・ゼロ』における形式の 発明を中心に	D-6 ニコラス・グアリン ドキュメンタリーアニメーションに ついての文献	E-6 落合賢一 放送用VTRテープの保存状況 —2インチVTRを中心に—	F-5 井上貢一 Movie Square 2016 —JavaScriptによる 動画のインタラクティブ処理	G-6 高山隆一 動画映像としての表現メディア『映画』にお ける表現技法の教授法—自主映画『Rouge』 における「カットバック成立」の表現技法—	
16:10 16:40	A-7 山本祐輝 初期アルトマン映画とは何か —音声と物語の観点から	B-7 鈴木清重 映像制作のフィールドワークと連動し た映像教育の可能性—映像心理学を 応用した映像教育への取り組み—	C-7 東志保 クリス・マルケルの映画のなかの 『幸福』のイメージ—『サン・シレイユ』 と『アレクザンドルの墓』—	D-7 小出正志 アニメーションとメディア芸術/ メディアアートの関係について	E-7 百束朋浩 連番ピントマップデータ色情報の領域分割 特徴量のビッグデータ解析手法における基礎 的検討3DCGアニメーションのケーススタディ			
16:50 17:20	A-8 吉岡愛子 李香蘭「大東亜共栄圏」の仮装劇 —『萬世流芳』と『私の鷲』にお ける仮装と越境のナラティブ			D-8 馬定延 映像記録の教育的活用に関する実証 的研究：坂根敏夫映像コレクションを 中心に	E-8 小林和彦 ゲームエンジンを活用した 音と映像の表現			
17:30 18:00	A-9 野村建太 静止画像による映画の考察— 『石の詩』にみるアニメーション的表現			D-9 宮田徹也 「いつか、どこかで」 —万城目純の芸術—	E-9 河合明 世界の自己電子出版： その課題と展望			

アナログ
メディア研究会
H202
※日本、フランスの
実験映画、実験ア
ニメーション作品を
35mmフィルムで上
映。作家などのト
クもあり。